

令和 4 年 6 月 29 日現在

機関番号：33916

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12188

研究課題名(和文) 新人看護師の多重課題に対応する実践能力育成のための教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of an educational program to develop practical skills to deal with multiple issues of new nurses

研究代表者

水野 暢子 (Mizuno, Nobuko)

藤田医科大学・保健学研究科・教授

研究者番号：80338201

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：研究の目的は、一般急性期病院に勤務する新人看護師の多重課題に対応する看護実践能力育成のための教育プログラムを開発することであった。

国内外における多重課題対応に関する文献検討後、COVID-19の影響により、予定していた面接調査が困難になったため、多重課題に対応する看護実践能力育成のための教育プログラムの作成に向けて、看護基礎教育において実施した多重課題への対応に関する教育プログラムを作成し、学習成果を検討した。多重課題の対応を学習するための事例検討と、事例検討の学習内容を活用した時間制限を設けた演習の実施により、多重課題に対応する看護実践能力の育成に寄与することができるという示唆を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究過程において、当初予定していた看護師の業務遂行過程における判断の調査に至らなかったが、看護基礎教育課程における多重課題対応に関する教育プログラムの作成を通じて、新人看護師の多重課題の対応に関する看護実践能力育成のための教育プログラム作成についての示唆を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the research was to develop an educational program for developing practical nursing skills to deal with the multiple tasks of new nurses working in general acute care hospitals. After reviewing the literature on dealing with multiple tasks in Japan and overseas, it became difficult to carry out the originally planned interview survey due to the influence of COVID-19 in the research process. In order to create an educational program for this purpose, we examined the learning outcomes of the educational program related to multiplex return response implemented in basic nursing education.

As a result, it is possible to contribute to the development of practical nursing ability to deal with multiple tasks by conducting case studies for learning how to deal with multiple tasks and conducting exercises with time limits that utilize the learning content of the case studies. I got the suggestion.

研究分野：看護管理

キーワード：新人看護師 多重課題 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

2017(平成19)年、看護基礎教育の充実に関する検討会報告書(厚生労働省)が提出された。本報告書においては、看護基礎教育終了時点の看護実践能力と看護現場で求める能力にはギャップがあると指摘されている。看護基礎教育における臨床実習においては、一人の患者を受け持ち学習するが、就職すると複数患者を同時に受け持ち、複数の作業を同時進行で行わなければならないため、臨床現場での看護ケア提供に適切に対応することが難しい。このような課題を踏まえ、看護基礎教育においては、より臨床実践に近い形で学習し、卒業後、臨床現場にスムーズに適應することができることを目指して、臨床実習において複数患者を受け持ち実習を行うことが提言された。一方、新人看護師に対しては、医療安全の確保や質の高い看護の提供という観点から、2010(平成22)年から新人看護師職員研修が努力義務化され、新人看護職員研修ガイドラインが策定された。

看護師は、臨床における看護実践においてさまざまな判断をしている。患者の状態を把握し看護歩の方向性を決定するだけでなく、複雑な環境の中で複数の患者を受け持ち、限られた時間の中でケアの優先度を判断しながら、看護業務を遂行するための行動を組み立て、多重課題に対応している。医療技術の進歩や患者の高齢化、重症化、平均在院日数の短縮化などを背景に、保健医療チームの一員として、安全な医療を効果的・効率的に提供し、質の高い看護を保証するためには、専門的知識に裏付けされた適切で確実な判断能力が不可欠であり、新人看護師においては業務遂行過程における判断能力育成のための教育が重要であると考えられる。

我が国の看護師の臨床判断についての研究は、臨床判断の構成要素について検討し、看護師経験による検討したもの(佐藤, 1989; 藤内, 宮腰, 2012)、特定の領域や場面を取り上げ臨床判断の能力の特徴やパターンを検討したもの(藤内, 宮腰, 安東, 2008; 浅原, 中村, 2000; 尾形, 2012)、臨床判断に対する影響要因を検討したもの(原, 林, 2011; 原, 林, 2015)がある。しかし、看護業務遂行過程における判断過程について検討した研究はほとんどない。

看護師は自立して判断し、行動することが求められている。タイムマネジメントや優先順位の判断は臨床現場でも求められる大きな要素である。しかし、看護師の看護実践能力は、地域・技術の側面から捉えられることが多く、看護業務遂行における全体像に焦点を当てたものは見られない。従って、看護業務遂行における判断過程を明らかにすることは、臨床現場における多重課題に対応する実践能力を明確にすることができ、新人看護師が多重課題に対応するための自薦能力育成プログラムの基礎的資料になり、新人看護師教育に貢献できると考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、一般急性期病院に勤務する新人看護師の多重課題に対応する看護実践能力育成のための教育プログラムを開発することである。

なお、本研究においては、COVID-19の影響下において、研究課題に関する研究動向の調査、および多重課題に対する看護実践能力教育プログラム作成の基礎資料として、看護基礎教育における多重課題に対する教育プログラムの作成・評価を実施した。

3. 研究の方法

1) 国内外における多重課題の対応に関する研究動向

医学中央雑誌およびPubMedを使用し、多重課題、看護師、multitasking、nursesのキーワードを用いて検索し、研究目的に合致する文献を入手し、研究内容を精査した。

2) 多重課題対応における教育プログラムの試行と評価

課題となる事例の選択

臨床の場で遭遇することが多い多重課題場面を教材として、多重課題が発生した場面における対応について検討することにした。教材となる事例の選択に当たっては、新人看護師が看護実践をする上で困難になる予定変更、複数行為での優先度、複数の人との関わりでの優先度、報告・相談(川西; 2012)を含む多重課題であること、直面している感ごま弁での対応だけでなく、対象となる患者の状態を判断する必要があること、を条件に市販されている多重化台場面のVTR教材を検討し、2事例を選択した。各事例について、事例における問題、患者状況、優先度の判断、具体的な対応方法を教員間で検討し、学生に学習させるべき項目を抽出した。学生は1グループ5~6名として24グループに分け、各事例に12グループずつ配置して、それぞれの多重課題の解決方法を検討するようにした。PBLは、自ら問題を発見し、問題解決する過程の中で知識や経験を得ていく学習方法であり、将来取り組むであろう問題解決に必要な態度、能力を育てる(山田, 中西; 2018)。PBLを用いることにより、学習者の学習動機を高め、臨床現場に即した主体的な知識の獲得、問題解決能力の養成、討論を介したコミュニケーション能力の獲得(森脇; 2018)が可能になると考え採用した。

この過程をとおして得た学習成果は、ロールプレイングという方法で発表し、多重課題の対応に関する検討過程に加えて、実際の看護ケア提供の方法を検討することで、知識とともに看護実践における技術習得に関する学習効果があると考えたためである。さらに、学習成果の発表によ

り、各グループの判断過程や対応方法について共有し、自分たちが考え多重課題への対応を客観的に評価することを目的に、発表後の振り返りおよび教員によるフィードバックを行った。

研究対象

A 大学における 4 年 139 名の作成した多重課題への対応に関する個人レポートとした。

分析

レポートを精読し、多重課題の対応に関して学習した内容について記載されている部分を抽出し要約後、コード化する。コードの類似性・相違性に基づいて、カテゴリー化した。

倫理的配慮

本研究は、藤田医科大学研究倫理審査委員会による承認を得て実施した。研究は成績評価終了後に実施し、研究協力の可否による成績への影響を排するようにした。本研究の趣旨と目的、研究方法および個人情報の漏洩を防ぐために情報管理方法や個人が特定されないプライバシー保護、研究成果の公表において個人が特定できる情報は含まないこと、研究参加については個人の自由意志に基づくものであることを記載した情報公開文書を作成し、大学ホームページと学内学生用 WEB システムに掲載した。

4. 研究成果

1) 国内外における多重課題の対応に関する研究動向

我が国における多重課題に関する研究は、新人看護師を対象とした多重課題における困難を明らかにしたもの（那須，2006；川西，2012）、特定勤務における多重課題への対応を明らかにしたもの（尾崎，亀岡；2017）がある。川西（2012）は、新人看護師が困難と感じる多重課題場面について、【予定変更】【複数の行為での優先度】【複数の人との関わりでの優先度】【報告・相談】の 4 つの場面があることを明らかにしている。多重課題場面の対応における優先度の判断については、那須（2006）の研究でも明らかにされており、新人看護師は多重課題場面における優先度の決定において「生命の危険度・重症度」を考慮する必要性は認識しているが、実際の判断は困難であることを指摘している。新人看護師がさまざまな困難を感じながら、先輩からのアドバイスや助言、スタッフの協力や応援、相談できる職場の雰囲気や環境、多重課題に対する学習の場を求めており、多重課題の対応時における先輩看護師の支援の重要性とともに新人看護師が不安や疑問のある場合には、自分の考えを他者に伝えることのできる職場環境の整備の必要性が指摘されている（那須，2006）。

一方、国外における多重課題に関する研究は、多重課題の発生頻度を時間管理という視点から検討されていたり（Po-Yin Yen, et al. 2017）、安全管理の視点から多重課題実施時における業務の中断と医療過誤との関連性を検討（Westbrook JI, et al. 2011）の検討が行われている。多重課題は、与薬の準備や管理中に起こる患者や医療職とのコミュニケーションによって発生することが多く、中断の際の対応方法や中断時の業務管理の方法を学習することが必要である（Clinta & Ann & Mary, 2018）と指摘されている。多重課題に直面している看護師は、複数のタスクに対する認識を切り替える必要があり、短時間で注意を意識的に変更するため疲労が強く、過誤を引き起こしやすい状況にあり、課題の複雑さや課題対応の習熟度が課題解決に影響を及ぼす（Po-Yin, et. al., 2017）。また、時間管理ができない看護師は、多重課題に対する行動ができず、実施後のストレスが高いことも指摘されている（Ashkey, et. al., 2020）。

2) 多重課題対応における教育プログラムの評価

多重課題の対応に関する教育プログラムによる学びは、【対応の優先順位を決定する】【優先順位を判断するための知識が必要である】【自己の能力を評価し、応援を要請する】【優先順位が低い患者への説明をする】【多重課題対応後の振り返りと評価を行う】【迅速な対応のための業務管理を行う】【応援要請が容易にできるためのチーム内コミュニケーションが重要である】の 7 つのカテゴリーに集約された。

【対応の優先順位を決定する】は、〔生命の危険度、重症度を判断する〕〔起こりうるリスクを判断する〕〔必要な看護介入の程度や時間を判断する〕から構成される。学生は多重課題への対応に当たり、優先順位を決定することが重要であることを学習しているが、教材となる事例を通して患者の身体的側面、精神的側面、社会的側面、発達段階等の情報を踏まえてアセスメントした上で、現在の状況が患者の生命の危険度や重症度に影響しているかを判断して優先順位を決定することの重要性を再確認できていた。さらに、況から起こりうるリスクを予測し、見極めることや、必要な看護介入を検討し、その介入に必要な時間を予測し、対応の優先順位の決定に活用していた。また、優先順位の判断に当たっては、疾患や病態生理に関する知識やその場の対応に必要な情報を収集するためのコミュニケーション方法に関する知識など【優先順位を判断するための知識が必要である】ことを学習していた。

多重課題への対応に当たっては、優先順位の判断に基づき患者へのケアを実施するが、ケア実施に当たり患者の安全を確保することやリスクへの対応など、自分自身の看護実践能力や知識、経験から【自己の能力を評価し、応援を要請する】ことが重要であると考えていた。応援要請に当たっては、援助に必要な患者状況の説明や応援を必要とする理由を簡潔に説明することが、円滑な援助の実施につながると考えていた。

優先順位が低く、対応を遅くなる患者に対しては、患者自身が安心して援助を待つことができ

るように、また援助が遅くなることへの不満を抱かせないように【優先順位が低い患者への説明をする】ことが必要であると学んでいた。患者への説明に当たっては、援助が後になることへの理由を説明し、患者の了解を得ることや待ち時間を提示すること、待つことが難しい場合には代替案を提示代替案を提示することも必要であると学習していた。さらに、援助に入る際は、対応が遅くなったことへの謝罪や患者の教育への感謝を伝えることで患者との関係構築につながると考えていた。

多重課題が発生した場合に適切な対応ができるためには、単に多重課題が発生した場面での対応だけでなく【迅速な対応のための業務管理を行う】ことで、一定時間に業務が集中して多重課題を発生させる可能性を軽減することや課題発生時に余裕を持って対応できると考え、通常業務における業務管理の重要性についても学習していた。さらに、多重課題に対応するための相談や円滑に必要な応援を依頼する上でも、日頃の看護チームのありようが影響するため【応援要請が容易にできるためのチーム内コミュニケーションが重要である】と考えていた。

本研究結果から、多重課題への対応を可能にする看護実践能力の育成においては、臨床で遭遇する機会の多い多重課題場面を用いて事例検討することで、優先順位の判断における留意事項や判断に影響する項目を学習することが可能になると考えられる。時間をかけて事例検討を通して多重課題への対応を考えることも必要であるが、実際の対応においては、限られた時間で優先順位やケアの方法を検討し実施しなければならないため、時間制限を設けて多重課題への対応をする演習も取り入れていくことで、より臨床での判断能力や実践能力の向上につながるのではないかと推測される。また、そのような演習を行う中で、現在の自己の能力を評価する機会にもなり、本研究結果で示された応援要請時の自己の能力の評価につながり、多重課題への対応に必要な実践能力の育成にもつながる可能性が示唆される。したがって、多重課題への対応能力育成のための教育プログラムでは、事例検討と制限時間を設けた多重課題への対応を組み合わせ実践することで、事例検討を通して学習した内容を活用して実際の対応を検討することができると考えられる。学生の学びにおいて【多重課題対応後の振り返りと評価を行う】ことの重要性が明らかになったが、教育プログラムにおいても多重課題の対応の実践を振り返り評価を行うことを取り入れることで、事故の課題を明確にすることにもつながるため、丁寧な振り返りの機会を設定することも教育的効果を高めることにつながることが推察される。

〔引用・参考文献〕

1. Ashley E. Franklin, Laura Thielke, Gregory E. Gilbert, Mary Waller(2020).TIDES: examining the influence of temporal individual differences on multitasking in educational simulation, *Advances in Simulation*5(31).
2. Clinta Che Reed, Ann F. Minnick, Mary S. Dietrich (2018). Nurses' responses to interruptions during medication task: A time and motion study, *International Journal of Nursing Studies* 82,113-120.
3. 川西美佐, 眞崎直子, 山村美枝, 村田由香, 中信利恵子, 笹本美佐, 小園由味恵, 奥村ゆかり, 中村もと系(2012): 新人看護師が困難になる多重化台場面-看護管理者への調査から-, *日本赤十字広島看護大学紀要*, 12, 89-95, 2012.
4. 厚生労働省(2007): 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書
5. 那須淳子, 大室律子(2007): 新卒看護師の看護ケア上の多重課題に関する実態調査, *日本看護学会論文集 第28回看護管理*, 95-97.
6. 森脇健夫(2018): 事例シナリオを用いたPBL教育, PBL事例シナリオ教育で教師を育てる-教育的事象の深い理解をめざした対話的教育方法, 23-40, 三恵社.
7. 山田康彦, 中西康雅(2018): 日本におけるPBL教育の現段階と今日的課題, PBL事例シナリオ教育で教師を育てる-教育的事象の深い理解をめざした対話的教育方法, 3-16, 三恵社.
8. Po-Yin Yen, Marjorie Kelley, Maecelo Lopetegui, Amber L. Rosado, Elaina M. Migliore, Esther M. Chipps, Jacalyn Buck(2017), *Understanding and Visualizing Multitasking Switching Activities: A Time Motion Study to Capture Nursing Workflow*, *AMIA Annual Symposium Proceedings Archive*2016, 1264-1273.
9. Westbrook JI, Duffield C, Li L, Creswick NJ. How much time do nurses have for

patients? A longitudinal study quantifying hospital nurses' patterns of task time distribution and interactions with health professionals. *BMC Health Serv Res.* 2011;11:319.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究は、研究者の都合により報告内容により中断とさせていただきます。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------